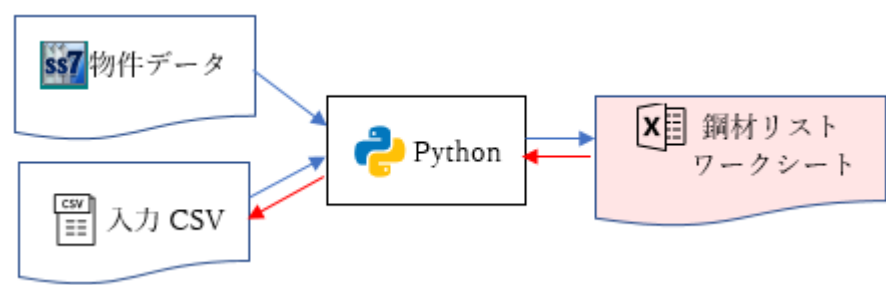


鋼材リストの読み書き

本プログラムの説明



- 物件データまたは入力CSVファイルの鋼材リストを、Microsoft Excel（以降エクセル）ファイルに書き込みます。
- エクセルファイルに保存した鋼材リストを入力CSVファイルに書き込みます。
- 対象の鋼材リスト

入力項目 [6.1.H形鋼] [6.2.角形鋼管] [6.3.円形鋼管] [6.4溝形鋼] [6.5.断面性能] [6.6.引張ブレース] [6.7.アンカーボルト]

本プログラムの実行方法

任意のフォルダに「src」フォルダ内の「slist.py」ファイルと「Python」フォルダをコピーします。
（Pythonフォルダについては後述の『Op.Python実行』の設定手順を参照）

```
C:\exampleにコピーする場合
C:\example
├─slist.py
├─Python
│   ├──Ss7Python.pyd
│   └─Ss7WrapCmd.dll
```

Python実行用コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。

```
cd /d C:\example
python slist.py 読み込み元 書き込み先 [鋼材リスト]
```

コマンドライン引数	説明
読み込み元	物件データフォルダもしくは入力CSVファイルを指定できます。
書き込み先	エクセルファイルもしくは入力CSVファイルを指定できます。

コマンドライン引数	説明
[鋼材リスト]	<p>省略可能。鋼材リストを個別指定します。 省略時は全鋼材リストが対象となります。 カンマ区切りで以下を指定します。 h：H形鋼 sq：角形鋼管 ci：円形鋼管 cs：溝形鋼 sp：断面性能 br：引張ブレース ab：アンカーボルト</p>

【使用例】

物件データ → エクセル （すべての鋼材リスト）

```
python slist.py C:\SS7\data.ikn C:\MyData\Steel.xlsx
```

入力CSV → エクセル （すべての鋼材リスト）

```
python slist.py C:\MyData\data.csv C:\MyData\Steel.xlsx
```

エクセル → 入力CSV （H形鋼とアンカーボルトのみ）

```
python slist.py C:\MyData\Steel.xlsx C:\MyData\data.csv h,ab
```

注意事項

- ファイル名はフルパス名で指定してください。相対パス名には対応していません。
- ファイルの種類は拡張子で区別します。

ファイルの種類	拡張子
エクセルファイル	xlsx
入力CSVファイル	csv
物件データフォルダ	ikn

- 物件データから鋼材リストを読むとき現在の入力データから読み込みます。
結果データに保存した入力データに対応していません。
- エクセルファイルに書き込むとき、以下の動作となります。
 - ワークシート名は以下の名前で固定とします。

「H形鋼」「角形鋼管」「円形鋼管」「溝形鋼」「断面性能」「引張ブレース」
「アンカーボルト」

- 指定したファイルが存在しないときエクセルファイルを新規作成します。
- 指定したファイルが既存ファイルのとき
 - 上記ワークシートが存在しないときワークシートを新規作成します。
 - 上記ワークシートが既に存在するときデータを **上書きします**。既存データを残したいときは、あらかじめワークシート名を変更してください。
- エクセルファイルのワークシートの構成

一般的なテーブル記述に準じて1行目はヘッダ行、2行目以降がデータとなります。データの内容・書式・単位は入力CSVファイルと同じです。全列が空白ならデータの終端とします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	
1	No.	TYPE	記号	H[mm]	B[mm]	tw[mm]	tf[mm]	r[mm]	
2	1	細幅	H	100	50	5	7	8	
3	2	細幅	H	125	60	6	8	8	
4	3	細幅	H	150	75	5	7	8	
5	4	細幅	H	175	90	5	8	8	
6	5	細幅	H	198	99	4.5	7	8	
7	6	細幅	H	200	100	5.5	8	8	
8	7	細幅	H	248	124	5	8	8	
9	8	細幅	H	250	125	6	9	8	
10	9	細幅	H	298	149	5.5	8	13	
11	10	細幅	H	300	150	6.5	9	13	
12	11	細幅	H	346	174	6	9	13	
13	12	細幅	H	350	175	7	11	13	
14	13	細幅	H	396	199	7	11	13	
15	14	細幅	H	400	200	8	13	13	
16	15	細幅	H	446	199	8	12	13	
17	16	細幅	H	450	200	9	14	13	
18	17	細幅	H	496	199	9	14	13	
19	18	細幅	H	500	200	10	16	13	
20	19	細幅	H	596	199	10	15	13	
21	20	細幅	H	600	200	11	17	13	
22	21	←空白行							
23	22	中幅	H	148	100	6	9	8	
24	23	中幅	H	194	150	6	9	8	
25	←データの終端								
26									

- エクセルファイルで鋼材リストを編集するとき、選択項目の名前（H形鋼の"TYPE"など）は『SS7』のヘルプや解説書(入力編)を参照して正しい名前を記述してください。
- 物件データへの書き込みに対応していません。
- 鋼材リストを書き込むときデータの正しさをチェックしません。

『Op.Python実行』の設定手順

Ss7Pythonライブラリを使用するための設定手順です。

1. 『SS7』を起動し、[ツール－環境設定－Op.Python実行]画面を表示します。
2. “利用可能なPython言語のバージョン”を選択し、[デスクトップへコピー]ボタンをクリックします。
3. デスクトップにある「Python」フォルダを「src」フォルダにコピーします。

必要な外部ライブラリ

以下の外部ライブラリをPython実行環境にインストールしてください。

- OpenPyXL

エクセルのファイルを読み書きします。

<https://openpyxl.readthedocs.io/en/stable/index.html>

著作者

Copyright(C) 2025 UNION SYSTEM Inc.

ライセンス

本プログラムは MIT License に基づいています。「LICENSE」を確認してください。

商標の表記

Microsoft、Excelおよび関連する名称は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

正式名称	本書での記載
Microsoft(R)	Microsoft
Excel(R)	Excel